

## 第1回 守口市地域コミュニティ拠点施設検討懇話会議事要録

開催日時	平成25年8月27日(火) 午後6時30分～午後8時40分
開催場所	守口市立教育文化会館 4階 第3会議室
出席者	直田 春夫 委員(会長)、田中 優 委員(副会長)、森岡 英 委員、小川 勝 委員、藤岡 祐香 委員、木村 真也 委員、今西 正史 委員、荒川 俊雄 委員、大麻 淑子 委員、辻 美子 委員 以上10名 【事務局】 (市民生活部) 部長 神野 浩一(市民生活課) 課長 西口 昭彦、課長代理 松岡 保和、自治振興係長 久保 育子、主査 菅原 なつみ、事務職員 大路 浩文、(株)関西総合研究所) 代表取締役 池田 恭和、主幹研究員 井出 光、研究フェロー 久保田 洋一
公開の可否	可
傍聴人	5名
次第	1 開会 2 市長あいさつ 3 委員紹介 4 懇話会の設置目的 5 議事 議題1 会長及び副会長の選出 議題2 諮問について 議題3 会議の公開について (会議の公開について、傍聴について、会議録について) 議題4 懇話会の進め方について 議題5 地域コミュニティ拠点施設の整備について 議題6 市民意識調査について 議題7 団体ヒアリングについて 6 その他 7 閉会
配付資料	第1回 守口市地域コミュニティ拠点施設検討懇話会 次第 【資料1】守口市地域コミュニティ拠点施設検討懇話会 設置条例 【資料2】守口市地域コミュニティ拠点施設検討懇話会 委員名簿 【資料3】守口市地域コミュニティ拠点施設検討懇話会スケジュール(案) 【資料4】懇話会の目的・議論していただきたい内容 【資料5】関連諸計画から見た地域コミュニティ拠点施設の方向性 【資料6】地域コミュニティ拠点施設の整備について 【資料7】地域コミュニティ拠点施設の整備に関する市民意識調査 【資料8】市民協働指針策定に関する調査(団体アンケート抜粋) 【資料9】団体ヒアリングの概要(案) (参考資料) 第五次守口市総合基本計画(概要版) 【参考1】関連諸計画等の概要 【参考2】既存公共施設の現状



## 1. 開会

司会から、第1回守口市地域コミュニティ拠点施設検討懇話会の開会が宣言された。

## 2. 市長あいさつ

西端市長から、地域コミュニティ拠点施設検討懇話会委員に就任いただいたことに対し感謝の意が示された。

守口市では、第五次総合基本計画の将来都市像を実現するための主要施策として、「コミュニティ活動の推進」を掲げており、地域活動を活発化し、地域の人々が気軽に集い、地域の結びつきをより深める拠点を形成し、コミュニティづくりを推進したいと考えていることから、市民に愛される施設づくりのためにご協力をお願いしたいとあいさつがあった。

## 3. 委員の紹介

市民生活部長が仮議長として承認された。

委員名簿に従い、委員の紹介がなされ、引き続き、事務局担当職員及び事務局作業を支援するコンサルタントの紹介があった。

## 4. 設置目的の説明

懇話会の設置目的の説明の後、配付資料の確認があった。

## 5. 議事

### 議題1 会長及び副会長の選出

仮議長により、守口市地域コミュニティ拠点施設検討懇話会設置条例第5条第2項に基づき、出席委員数の確認が行われ、委員10名全員の出席があることで、会が成立している旨の報告があった。

その後、懇話会設置条例第4条に基づき、委員による会長の互選があり、直田委員が推薦され、委員の合意に基づき、会長に選出された。

副会長については、委員から会長に一任との提案があり、田中委員が副会長として指名された。

その後以下のように会長、副会長からあいさつがあり、以降会長により議事が進められた。

会長：NPO政策研究所というNPOのシンクタンクを運営し、コミュニティづくりの調査・研究にも関わっている。この懇話会と平行して市民協働指針の策定委員会が行われており、私も委員として関わっている。お互いに深く関連する内容であることから、その動きも考慮しながら進めたい。

副会長：普段は枚方市のキャンパスで勤務しているが、大学の本部は守口市にあり、市との関係も深い。自治体の公共政策を専門としているが、講義の関連で地域に関心を持っており、学生とともに地域の中に入り、フィールドワーク形式でまちづくりを進める方法をとっている。今回も、まちづくりの視点から皆様とともに方向性を見出していきたいと考える。

### 議題2 諮問について

会長から市長より諮問を受けたいと発言があり、市長から諮問主旨が説明され、会長

に対して諮問書が提出された。委員にも諮問書の写しが配付された。

(市長退席)

### 議題 3 会議の公開について

会長から、委員に対して、会議の公開について諮られ、了承された。

その後会長から傍聴要領についての説明が求められ、事務局がその概略を説明した。会長から、要領に記載のない事項については会長が判断し、委員に報告するという提案があり了承され、傍聴希望者（5名）の入場が許可された。

会議録については、要点筆記で作成し、委員が内容を確認した上で、無記名で公開するという提案があり、了承された。

### 議題 4 懇話会の進め方

会長から、事務局に対して、資料 3「懇話会スケジュール（案）」と資料 4「懇話会の目的・議論していただきたい内容」について説明が求められ、事務局から資料に従って説明された。

質問・意見交換が以下のようにあった。

会長：諮問事項を具体的に示すと資料 4 のようになると思う。非常にタイトな日程だが、12月24日に答申するには、第4回あたりで原案の見通しが得られるようにする必要があり、資料 3 のようなスケジュールで進めざるを得ない。全体に対するご意見は今日の会議の最後にいただく機会を設ける予定なので、資料 3・4 について特にご意見があればお聞きしたい。

委員：資料にある日程は決定か。委員が集まらない場合は会議が成立しないこともあると思うが、この日程に合わせるということか。

事務局：スケジュールがタイトなので、日程を決めさせていただいた。できるだけこの日程に合わせていただきたいと思っている。

委員：今日の会議の通知も遅かった。

会長：資料については、あらかじめ目を通せるようにしたい。今回は最初の会議なのでやむを得ないが、今後は配慮をお願いする。日程については表 3 のように進めたい。

### 議題 5 地域コミュニティ拠点施設の整備について

会長から、事務局に対して、資料 5「関連諸計画から見た地域コミュニティ拠点施設の方向性」と資料 6「地域コミュニティ拠点施設の整備について」の説明が求められ、事務局から資料に従って説明された。

質問・意見交換が以下のようにあった。

会長：資料 5 については、これまでの市の計画や政策の動きをまとめたものである。資料 6 については、答申に向けた素材として、想定される論点を示したもので、例えば超高齢社会への対応は極めて重要である。国立社会保障・人口問題研究所が今年 3 月に公表した将来人口の推計では、守口市の人口は現在の 14 万人から、30 年後には 11 万人弱になると予想されている。こうした中で将来安定した社会を築くにはどうしたらよいか問題となる。少子高齢化は社会全般に影響し、相互の助け合いが必要となることは確かなので、地域コミュニティ拠点施設もその点を考慮して検討する必要がある。資料 6 はあくまで議論の素材であり、皆様のご意見をお聞きして加筆していきたい。

## 議題 6 市民意識調査について

会長から、事務局に対して、資料 7「地域コミュニティ拠点施設の整備に関する市民意識調査」と資料 8「市民協働指針策定に関する調査（抜粋）」の説明が求められ、事務局から資料に従って説明された。

質問・意見交換が以下のようにあった。

会長：資料 7 は 18 歳以上の市民から 3,000 人を無作為抽出し実施したアンケートで、委員の中にも回答された方もおられるかもしれないが、今回の資料は単純集計として、全体としての意見の傾向をまとめたものである。

資料 8 は、平行して行われている市民協働指針策定委員会において実施された市内の団体へのアンケートで、本懇話会の検討に関連する部分を抜粋したものである。

個人的には、資料 7 の問 16「新たな施設において、事業やイベントの企画・運営等に参加したいか」という質問に対し、「参加したい」「条件が合えば参加したい」と答えた人が 3 割あり、「参加は不明だが、関わりを考えたい」と答えた人を加えると 6 割になるというのは、期待できる数値と考える。

副会長：地域の人々の意向を知る上で貴重な資料だと考える。また、資料 6 と符合する事項も多い。例えば資料 7 の問 5-2「市民活動に参加していない理由」に対する回答から、市民活動に参加しない大きな理由として情報不足があり、新しい地域コミュニティ拠点施設でも情報提供に留意すべきである。（情報のある）一部の人だけが公共施設を利用している状況では、市民活動の活発化や市民力向上には繋がらないと思った。

また、今後も身近な場所に市民活動施設がほしいという要望が強く、地域コミュニティ拠点施設をどのように配置するかが重要である。きめ細かく配置するのが理想ではあるが、それが困難な場合は現実的な対応方法を考えていく必要がある。

問 14「新たな施設にどのような施設・設備が欲しいか」では、いろいろな施設・設備が要望されているが、全体として見ると、特に用が無くてもふらっと立ち寄れるスペースが求められていると考えられ、地域コミュニティ拠点施設でも対応する必要がある。

また、こうした機能をどの範囲で確保すべきかが課題となる。

委員：地区によって活動の状況など温度差があると思うが、アンケートはどのように配付したのか。中心部と北部、新興住宅地などで回答が違ってくると考えられる。

事務局：アンケートは、小学校区別に性別・年齢が偏らないよう配付した。校区によって人口に差があるが、それは無視し、均等な配付とした。

委員：全体の意向を知るには、人口比で配付した方が良かったのかもしれない。

会長：人口比で配付すると小学校区の回答率の差などに影響するというので、今回のような配付方法になったかと思うが、調査の内容によっては、人口に応じて配付数を変える必要があったのかもしれない。

委員：人口の少ない小学校区に住んでいるが、地域行事には多くの人に参加している印象を持っており、問 5 で地域活動に参加していない人が多いという結果が出ているのは意外だ。

## 議題 7 団体ヒアリングについて

会長から、事務局に対して、資料 9「団体ヒアリングの概要（案）」の説明が求められ、事務局から資料に従って説明された。

質問・意見交換が以下のようにあった。

会長：アンケートを補足するために団体に対する個別ヒアリングを考えているとの事だが、対象、内容はこれでよいか。

委員：対象から自治会が外れているが何か理由があるのか。

事務局：今回のヒアリングは“場の確保”に重点を置きたいと考えていることから、団体アンケートの結果から、活動場所を探していると思われる対象を選定した。

委員：自治会は集会所を管理しており、それとの連携も重要と考えられる。

会長：他の公共施設との関係についても後々議論したい。

委員：公民館等を利用しているサークルが地域コミュニティ拠点施設の機能や運営方法について意見を述べる機会は考えているか。そういう機会も必要と思う。

会長：団体アンケートの対象にはサークルも含まれていたか。

事務局：公民館等で活動しているサークルについては把握が難しく、団体アンケートの対象とはしなかったが、年明けにパブリックコメントの実施を予定しており、その際にご意見をいただければと考えている。

### <全体意見>

会長：各委員の方々の今日の資料を通しての意見や、今の段階での思いをお聞きしたい。

委員：地域コミュニティ拠点施設という言葉に悩みを持っている。まず、「地域」とはどの範囲をいうのか。自治会か、小学校区か、それとももっと大きな範囲か。どこに配置してどのような機能を持つのかをこれから検討するのだが、タイトルが多くの意味を含みすぎるのではないかと思う。懇話会の目標・目的をどこに置くのか。

会長：まず、地域の範囲や考え方など、ベースとなる部分を議論し、それから詳細に入っていく必要があるというご指摘である。

委員：まだ施設のイメージが固まっていないが、こういう会議は中高年の意見に偏りがちであるが、アンケート等では、もっと若者の意見に注目しても良いのではないかと思う。

委員：懇話会の設置目的に多機能施設の整備とある。多機能施設とコミュニティ施設は意味合いが異なると思うが、どのように考えるか。また、守口市では公民館活動が長く展開されてきた経緯があるが、それとの関連をどうするか。また、改革ビジョン（案）で廃止とされた施設との関係をどうするか。多機能施設の内容を考えるにはこれらの問題を整理する必要がある。戦後のコミュニティ活動は公民館活動に始まって、1970年代にコミュニティセンターが登場し、現在では地域自治組織制度が作られつつある。守口市ではその間ずっと公民館活動を行ってきたわけだが、新たに整備する地域コミュニティ拠点施設については、地域自治組織との関連の中で考えなければならない。また、そのためには、公民館活動を支えてきた人々の意見も吸い上げるべきと考える。

委員：公民館は身近な施設なので、廃止すべきでないと思うが、地域コミュニティ拠点施設がそのすべての機能を吸収した上で、新しい機能を付加するなら廃止も賛成する。行政の関わり方も重要で、住民の自主管理も良いが、調整役として行政職員も配置してほしい。

委員：公民館は無くてはならない施設で、様々な学びや地域住民間のつながり、地域への愛着も養ってきたと思う。公民館では社会教育をベースに事業展開がなされていたが、新たな施設でも、身近な場所で、人とのつながりを基本としたまちづくりの拠点となる事が大切だと思う。同時に障害者や色々な事情を抱えた人が安心して出会い、学べる、人づくりの施設であってほしいと感じた。

委員：先程のご意見と同様で、若い人が多く集まるような施設が良いと思う。青少年向け

の活動をする NPO に属しているが、若い人はなかなか集まってこない。地域コミュニティ拠点施設は若い人が集まり、子どもと高齢者をつなぐ役割をするような場であってほしい。

委員：私も若い人から年配の方までが集まり、出会いが生まれるような施設が良いと思う。これからは少子高齢化が進行し、老々介護等の色々な状況が生まれると思うので、関係者間の交流や関連情報が得られるような施設にしてほしい。防災拠点という面からは、両親が阪神淡路大震災の時に小学校に避難したが、情報が遮断されてしまいがちなので、災害時の情報提供にも対応できるような拠点であれば良い。

委員：公民館運営委員会の代表として出席している。公民館は社会教育を中心に運営されており、多様なサークルが利用しているので、利用者やサークルの意見を各公民館単位に集約する場を設けてもらえるとありがたい。

公民館ができてから 40 年 50 年経っているが、若いころ公民館を利用させていただき、現在こうやって運営委員長をやらせていただいている。年配の方の意見の反映も必要だが、若い人の意見についても、もっと取り入れていただきたい。また、小学校区によって、若者が多い、高齢者が多いなど地区により差があるので、考慮すべきと考える。

これから整備する施設については、新しい時代に沿った、今後 50 年先にも市民に利用される活動の拠点として作っていただきたい。

会長：皆様のご意見から人が地域を作っているということを実感している。新しい施設は 10 年、20 年先のことも考える必要がある。

副会長：各委員から重要な論点が示された。皆様のご意見をお聞きしながら、自分なりに考えたことを述べさせていただく。守口市の人口は 2040 年には 11 万人になると推計されているが、今の施設は最盛期の 18 万人の人口に対応して配置されている。きめ細かく公共施設が設置されている状態を当たり前と思ってきたが、これからは自分たちの生活に本当に必要なものは何なのかを考え直さなければいけない時代になる。地域コミュニティ拠点施設を考える時にも、行政が作ってくれる、与えてくれるではなく、よりよい地域を作るために自分達が必要なものを作っていくという発想が必要だ。

地域の範囲をどうすべきかという問題提起があったが、本来はできるだけ小さい単位できめ細かく施設を配置する方が良い。しかしながら、財政状況から限界がある。市全体を 1 つの大きなコミュニティと捉え、その拠点となる施設をセンターとして、星を散りばめるようにネットワークを組む考え方が必要ではないか。その星の 1 つ 1 つとしては、例えば小学校区レベルでは、今後小学校の統廃合が進むことで生まれる空き校舎や、空き教室を地域の集会等で利用することも考えられる。そのように施設をリサイクルする考え方と併せて、地域の範囲の捉え方の仕分けが必要である。

若い人の意見を聞く必要があるという議論もあった。アンケートにも若者の意見は反映されているが、補足として高校生や中学生、大学生の意見を吸い上げる機会を作ってはどうか。本市に通学している学生の意見は参考になると思う。

会長：大枠の論点を示していただいた。例えば人口減、財政難の中でどうニーズに対応すべきかという問題がある。公民館が役立ったという話があったが、機能を上手く保持しながら、別の施設で活かす方法はないか、施設と中身を分けて考える事も必要ではないかと考える。自治会や民間も含めて既存の色々な施設を地域で活用することで、もっと交流が生まれる可能性もある。発想の転換も必要ではないかと考える。また、若者に積極的にパブリックコメントの提出を求めることも 1 つかと思う。

できるだけ多様な意見を出していただき、多方面から検討を加えていければと考えている。今日は資料が多く、とまどった方も居られると思うので、次回は事前に資料を送

付するようお願いしたい。

## 7. その他

第2回の検討懇話会については、9月12日の木曜日午後6時30分から、市立教育文化会館の第2会議室で開催するとの報告があった。

## 8. 閉会